

新潟市名誉市民選考委員会 委員意見（概要）

|           |  |
|-----------|--|
| 開催日時      | 令和6年1月24日（水）午後1時15分～2時30分  |
| 会場        | 新潟市役所本館議会棟6階 第3委員会室  |
| 委員<br>略歴  | <p>（五十音順）</p> <p>石川 善成 委員<br/>（一財）日本水土総合研究所 総括技術監、前北陸農政局長、元新潟県農地部長</p> <p>◎ 伊藤 充 委員<br/>新潟青陵大学特任教授（教育史、近世・近代史等）、元新潟市教育委員会教育政策監、元新潟小学校校長</p> <p>大宮 一真 委員<br/>新潟市教育委員（教育長職務代理者・保護者委員）、元新潟市小中学校PTA連合会 会長</p> <p>内藤 正彦 委員<br/>（公財）リバーフロント研究所 業務執行役、前北陸地方整備局長、元北陸地方整備局企画部長</p> <p>○ 畠山 典子 委員<br/>（公財）新潟県女性財団理事長、新潟市教育委員、元新潟県男女平等社会推進課長</p> <p>廣田 幹人 委員<br/>新潟商工会議所副会頭、新潟総合警備保障（株）代表取締役社長</p> <p>森沢 真理 委員<br/>株式会社新潟日報社取締役（特別論説編集委員）</p> <p style="text-align: right;">出席7名 欠席0名（◎委員長 ○副委員長）</p> <p>（新潟市名誉市民条例施行規則第3条第2項の規定により、令和6年1月24日をもって全委員の委嘱終了）</p>                                    |
| 事務局       | 秘書課  |
| 傍聴者       | 非公開  |
| 委員<br>意見等 | <p><b>【議事】</b></p> <p>（1）委員の委嘱について<br/>・委嘱状を交付</p> <p>（2）委員長・副委員長の選任について<br/>・委員長、副委員長を選任</p> <p>（3）新潟市名誉市民制度について<br/>・事務局より本市の名誉市民制度について説明</p> <p>（4）新潟市名誉市民候補者について<br/>・事務局より本市名誉市民候補者である佐野藤三郎氏について説明</p> <p>（5）意見交換<br/>・委員からの主な意見は下記の通り</p> <p>&lt; A 委員 &gt;</p> <p>・佐野氏は非常に多くの功績があった方である。当時、農林水産省の中では、農業土木の分野でとても有名だった。佐野氏や亀田郷土地改良区が排水機場の整備促進により、乾田化に力を注いだ結果、優良農地を創出することができた功績とともに新潟は低平地なので、農地だけでなく都市部も排水機場から大きな恩恵を受けている。</p> <p>また、新潟駅からこんなに近くに田園地帯が広がり、都市区域と穀倉区域がしっかり区分され、発展している事例は全国的にも稀である。</p> <p>・国際交流を広めていった意義は大きい。特に、中国でのプロジェクトが進展していなかった際には、自ら外務省や中国政府の役人と交渉や調整を進めて</p> |

いった。こういった佐野氏の功績は、新潟市だけでなく、日本全体で評価してもいいと考えている。そういった意味で過去に農林水産大臣賞も取られており、新潟市名誉市民に該当する方だと考える。

< B 委員 >

- ・佐野氏は新潟市の都市計画について大きな功績があった方と認識している。新潟市の中心部から近い地域で、都市と農村が調和しているのは、政令市の中でも珍しい。佐野氏の取組は鳥屋野潟南部の開発計画の礎にもなった。新潟市名誉市民に相応しい方だと思う。
- ・「まんが にいがた 偉人伝」の各小中学校への配布は素晴らしい取り組みなので、ぜひ子ども達に読んでもらい、新潟市にはすごい偉人がいるということを改めて認識してほしい。

< C 委員 >

- ・農業の発展、湿田の乾田化の面で大きな功績があった方。現代においては、ゲリラ豪雨や線状降水帯による大雨という脅威を受けて、全国的に流域治水に取り組むことになったが、当時、土地の条件が厳しかった新潟においては、通常の雨でも、浸水への対策に取り組まなければならなかった。地域の安全を守り地域の価値を落とさないために自ら動き、実践されたという、現代の流域治水を先取りする考え方のもと、重要な取り組みをされたという点は非常に高く評価できるし、我々も見習わなくてはならないと感じた。
- ・都市と農地の調和という面での功績も大きい。鳥屋野潟は排水の要であり、新潟を象徴する水辺であるが、かつて、農業生産や都市の拡大という面ではむしろ弊害と捉えられていた時代もあり、鳥屋野潟を埋めようという話もあって、実際に新潟の堀や、今、再生しつつあるが栗ノ木川も新潟地震を契機に埋め立てられてしまった。しかし鳥屋野潟は、今では非常に大きな新潟の財産であり、その周辺には都市と農業の地域が広がり、人々が集まるレジャーやスポーツ施設もあって、新潟の核となるエリアとなった。都市と水辺が近いことに大きな価値がある。まちづくり、都市づくりという面でも「農業を軸に」という点が新潟の特徴だと思うが、これも手本になるような取り組みであり、そういった面でも佐野氏の功績は非常に大きい。現在においては、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ、グリーンインフラと呼ばれるような、自然と開発の調和、また、それに価値を見出すのが国際的な流れである。佐野氏はまさに、農業とかまちづくりという面でも潮流を先取りしており、志の高い取り組みであったと考える。そして、全てを実践してきたということに大きな敬意を表したい。

< D 委員 >

- ・佐野氏の功績は多岐に渡るとともに、新潟の歴史にも深く関わっており、多面体のような印象を受けている。佐野氏の取り組みには現代に生きる私たちも学べることが多い。令和6年能登半島地震で、新潟も液状化現象など大きな被害を受け、多くの市民が不安な気持ちを持ったと思う。佐野氏は、新潟地震の発生後、甚大な被害からの農業の立て直しや、新潟市民の安心安全の確保にも取り組まれた。こうしたことを学ぶ意義は大きい。市民のアイデンティティ構築や、私たちの励みにもつながっていくと思う。
- ・国際交流の観点で見ると、こういった方を名誉市民に選ぶのかというのもメッセージの一つになる。今は日本海に吹く風が冷たくなっているが、当時も対岸諸国との間でさまざまな対立が見られた。そうした中で、新潟独自に、民間の方が環日本海交流という形で、平和な交流を重ねていこうという動きがあった。交流の重要な一端をつくったのは佐野氏である。その功績を市民が共有して、将来に伝えていくことはとても大事だと思う。
- ・生前の佐野氏と話したことがあるが、その構想を当時は断片的にししか理解できなかった。食の安全保障やまちづくりなど、佐野氏が話されていたことが、何十年か経って、一つずつ、こういう意味だったのかと理解できるようになった。ピースがはまっていく感じだ。ほかの方とのお話でも似たような経験をしたことはあるが、佐野氏の場合はそのピースが特大だった。

委員  
意見等

< E 委員 >

- ・佐野氏は、想像を超える様々な領域で活躍された方で、農業やまちづくり、国際交流など、どの分野においても、その功績は語り尽くせない。鳥屋野潟周辺のゾーニングの考え方により、都市と農業圏の有効で健全な調和をいち早く図っていたという事実は驚きに値する。
- ・国際交流においては、当時政治的な思惑など難しい時代にあって、新潟の住民が安心安全に暮らせるように、住民の貧困をなくすようにという気持ちから、その実現を信じて疑わない、情熱のもと突き進んだという佐野氏の姿勢には、教育的な視点からも、目を見張るものがある。
- ・佐野氏は、新潟市はもちろんのこと、国レベルの事業に取り組みされてきた方であり、大人だけがその功績を知っているのでは惜しいと思う。佐野氏の功績を大人はもちろん、若い方や子ども達に向けたパブリシティなど、若い方々にも伝わるような仕掛けを各所で検討してほしい。

< F 委員 >

- ・昨年、新聞やテレビなど様々な場面で、佐野氏の功績が取り上げられているのを目にした。多くの方々の、佐野氏のことを盛り上げて名誉市民につなげたいという思いを強く感じた。
- ・佐野氏を紹介する漫画の各学校への配布は、とても素晴らしい取り組みだと思う。子ども達はこの漫画や様々な機会を通じ、佐野氏のことを学ぶことで、たくましく生きる力、信念を持って物事を進めていく力を学ぶことができるのではと感じた。
- ・今、鳥屋野潟の周辺エリアでは、いつも多くの子ども達が遊んだり、風景に触れたりしている。佐野氏のことを学ぶことで、先人達の様々な取り組みが、自然と都市が調和している、今の新潟市がつながっていると感じることができるとは。そして、それが郷土愛、ふるさとのために私にも何かできることがないかという気持ちにつながっていくことを期待したい。
- ・当時、腰までつかった農作業を闘っていた時代には、仕事後は疲れ切っており、きっと家庭生活なんてあったものではなかった、暮らしを楽しめる状況ではなかったと思う。土地改良が飛躍的に発展したおかげで、地域の方がゆとりを持った生活ができるようになり、きっと家族が互いを思いやるゆとりにもつながったと思う。今の私たちの生活を大きく変えてくださった佐野氏をぜひ名誉市民にお願いしたい。

< G 委員 >

- ・1点目として、農業やまちづくり、国際交流の3つの分野において、リーダーとして多くの人々をまとめて、様々なことを成し遂げたことが非常に大きな功績として認められると考えている。
- ・2点目として、教育という視点で捉えれば、現在、新潟市内の小学3、4年生は「地域の開発」について学ぶ機会があり、東新潟から亀田郷の地域にある小学校では、亀田郷の開発のことを学んでいる。亀田郷の開発のリーダーが佐野氏であるが、子ども達は、芦沼という映像で、腰までつかえるような耐え難い農作業でも、くじけずに頑張って乾田化を成し遂げた。つまり、不屈の精神で亀田郷は開発されたということ、その取り組みが今の暮らしにつながっていることを学んでいる。佐野氏の功績は、新潟市の子ども達に、不屈の精神で頑張るという姿勢を学ぶ機会となっており、これが市民の気質に大きな影響を与えているという点でも大きい。こういった面からも佐野氏は名誉市民に相応しい人物と考える。佐野氏は、産業、経済、暮らし、国際理解、文化、教育の各分野で、私たちに大きな影響を与え、これからの未来を指し示してくれた人物だと思う。

< 審議結果 >

- ・当委員会としては、候補者である佐野藤三郎氏について、新潟市名誉市民に相応しいものと全会一致をもって判断する。